

第 26 回（通算 144 回） 全経簿記検定試験 上級 結果と講評

商業簿記・会計学

ネットスクール株式会社

科 目		第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
商業簿記		決算三勘定	残高勘定 連結会計	貸借対照表
会 計 学	第 1 問	(1) 正誤問題	(1) 正誤問題	(1) 正誤問題
	第 2 問	(2) 企業結合	(2) 企業会計原則	(2) 配当可能限度額 の計算
	第 3 問	(3) 退職給付会計	(3) 外貨換算会計	(3) 固定資産

講評

〔商業簿記〕

商業簿記は、最近では連続して決算三勘定関係でしたが、第 1 問では個別の仕訳問題が出題されました。ただし、難易度としては、割賦販売、新株予約権付社債、減価償却、消費税についてはそれほど高いものではなかったと思います。期末商品の評価については問題文の資料が複雑であったものの部分的な仕訳は出来てほしいところでした。借地権の問題については、特殊な論点でありできなくても可否には影響しないと思われます。

次に第 2 問では在外支店の換算が出題されました。資料の与え方が非常に平易であり、ここは完答してもらいたい問題でした。あえて挙げるとすれば、商品関係の換算を冷静に解けたかどうかポイントだと思います。

〔会計学〕

会計学の第 1 問は、今回も理論の正誤記述問題でした。過去の本試験問題のすりなおしの問題と、会計法規の端のほうからの問題の 2 つに分かれたことが今回の特徴といえるでしょう。

1 株当たり当期純利益の計算や税効果の税率についての問題は出来なくてもしかたがないと思います。

第 2 問では、語句を記述させる問題が出題されました。内容としては、金融商品と資本の表示、棚卸資産の表示順序、経過勘定と未払金の相違、とバラエティに富んでいました。金融商品と資本の表示については、非常に重要度の高いところから出題されたので出来た方も多いと思いますが、棚卸資産の表示順序は、出来なかった方も多いと思われます。

第 3 問では、キャッシュ・フロー計算書が出題されました。過去の問題と出題形式はほぼ同じであり、ぜひ出来てほしい問題でした。

第 26 回(第 144 回) 全経簿記検定試験**結果と講評****工業簿記・原価計算**

ネットスクール株式会社

科 目	第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
工業簿記	工程別組別総合原価計算	単純総合原価計算	直接原価計算
原価計算	標準原価計算	C V P 分析 的中！	事業部制 + 意思決定会計

講評**[工業簿記]**

工業簿記は今回予想に挙げてなかった等級別総合原価計算が出題されました。ただし、問 1 ～ 3 と問 5 はオーソドックスな内容であったのでさほど戸惑うこともなく解けたのではないのでしょうか。また、問 4 の仕損処理における加工進捗度の扱い方を問う問題も、問 3 での計算（月末仕掛品に仕損費を負担させたか否か）を参考にすれば解答できたと思われます。

以上の問題で確実に点数を確保できれば、合格ラインに達していると考えられます。ですから、連產品との類似点が挙げられなかったことを悔やんでいる方も、その他の問題が出来ていればそれほど心配することはないでしょう。

[原価計算]

問題文を見て、かなりの方が一瞬ギョッとされたのではないのでしょうか？

しかし、内容はかなり簡単です。見慣れない語句も、問題文の指示に従えば全く問題ないところでしたから、結局、冷静になって解けたかどうか合否の大きな分かれ目になったと思われます。

計算に関して言えば、第 2 問の問 4 を除けば、ほぼ満点を狙えたはずです。

第 3 問、第 4 問は 138 回に同様の考え方の問題が出題されています。できなかった方は確認しておいてください。